

街を行く

第51回 ハワイ(その1) Hawaii

なんとって「常夏の国」

年末・年始に芸能人たちがこぞって訪れる「ハワイ」。新年号から2回にわたって常夏の国からお届けします(もちろん「街を行く」の視点からですよ)。小生の米国出張は、たいていは東海岸(ニューヨークかボストン)ですが、毎度のことながらフライトの長さに参っています(そろそろ歳か?)。それに比べてハワイは近い。食事や会話も日本人に何ら不自由ありません。それでいて、日本にはないカラっとした気候や空気、街の開放的な雰囲気は最高で、「ハッピーリタイアメント」した日本人が暮らすならここでしょうね。昔からずっと人気不衰の理由がよくわかります。

街づくりからいえば、温暖な気候、豊かな自然と、リゾート地として恵まれた環境・ロケーションをはじめから持っています。それに加えていろんな付加価値もあるところにハワイの凄さがあります。まさしく数あるリゾート地を押し抜けて『常夏のハワイ』なのです。誰が名付けたかはわかりませんが、うまいネーミングですよ。規模からして敵わないものの、グアムやサイパンはハワイの引き立て役にしか過ぎないと思わずにはられません。とりわけ、ホノルルのワイキキビーチからダイヤモンドヘッドに繋がる一連の風景を知らない人はいないでしょう。その凄さは一度も現地を訪れた事のない人までもが頭に思い浮かべることができるのです。

一つのリゾート地に、年間で訪れる観光客が日本全体と変わらないのですから、一年中人でごった返しているというも頷けますが、人が多くても決して嫌な気分にはさせない。ハワイは何ら疑いなく観光で



ハワイではおなじみのビーチ「ワイキキ」と、オアフ島にあるリゾートエリア「コオリナ」街全体が健康的なエンターテインメントに溢れている。

成り立っていることを素直に街づくりコンセプトへ反映し、忠実に守っているからでしょう。一言で言えば、街じゅうが「理屈なんてない、いかに訪れた人を楽しませるかだ」に力を注ぎ、旅行客は楽しもうというポジティブな気分となり、人生を謳歌、自己陶醉できるほど娯楽要素が溢れている。娯楽と言っても飲む・打つ・買うといったダークなイメージではない健全で明るいエンターテインメントに仕上がっています。後ろめたさを一切感じることなく過ごすことができるというわけです。

街全体が大きなアミューズメントパーク化するコンセプトで歴史に頼ることなく進化しつづけているハワイ。これから観光立国を目指している日本に、はたしてマネでき

ますかね? 日本は歴史的建造物や観光資源に恵まれるあまり、それに頼り過ぎていっているのかも…。来月号では、新しい開発に関するテーマも交えて、これからのハワイと、日本を考えてみましょう。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。